(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2020-121786
(P2020-121786A)
(43)公開日　令和2年8月13日(2020.8.13)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 75/58	***(2006.01)***	Ｂ６５Ｄ	75/58		３Ｅ０１４
B65D 77/00	***(2006.01)***	Ｂ６５Ｄ	77/00	Ａ	３Ｅ０６７
B65D 83/00	***(2006.01)***	Ｂ６５Ｄ	83/00	Ｇ	

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 9 頁）

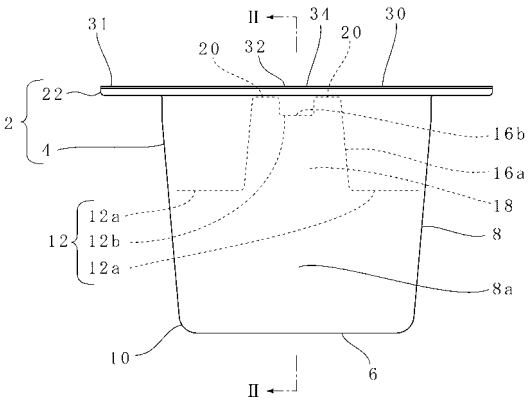
(21)出願番号　特願2019-15806(P2019-15806)
(22)出願日　平成31年1月31日(2019.1.31)

(71)出願人　000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島３丁目２番６号
(74)代理人　100113169
弁理士　今岡　憲
(72)発明者　坂本　智
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内

Ｆターム(参考)　3E014 PA01 PB03 PC03 PC04 PC16 PD23
3E067 AA03 AB28 BA13A BB14A EA04 EB02 EB29 EE59 FA01 FC01 GD10

(54)【発明の名称】ポーション容器

(57)【要約】
【課題】簡易な構成により、飛散防止機能を実現したポーション容器を提供する。
【解決手段】内容物収納用の有底筒状の筒体４の上端に外向きフランジ２２を付設した容器本体２と、前記外向きフランジ２２の上面に貼設したシール蓋３０とからなり、前記筒体４の底部６側から、当該筒体４の少なくとも下半部を左右に区分する隆起部１２を突設させ、この隆起部１２の両側の筒体部分を、押込み操作部を兼ねる左右一対の脚部１０に形成するとともに、前記隆起部１２の内部を押込み代である空隙Ｓとしており、前記隆起部１２の少なくとも前後方向の一部に形成する押圧部２０を前記シール蓋３０に近接させ、前記一対の脚部１０を左右方向内側へ押し込むことで前記押圧部２０が前記シール蓋３０の一部を突き上げ、開口させるように形成した。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
内容物収納用の有底筒状の筒体(４)の上端に外向きフランジ(２２)を付設した容器本体(２)と、
前記外向きフランジ(２２)の上面に貼設したシール蓋(３０)と、
からなり、
前記筒体(４)の底部(６)側から、当該筒体(４)の少なくとも下半部を左右に区分する隆起部(１２)を突設させ、この隆起部(１２)の両側の筒体部分を、押込み操作部を兼ねる左右一対の脚部(１０)に形成するとともに、前記隆起部(１２)の内部を押込み代である空隙(Ｓ)としており、
前記隆起部(１２)の少なくとも前後方向の一部に形成する押圧部(２０)を前記シール蓋(３０)に近接させ、
前記一対の脚部(１０)を左右方向内側へ押し込むことで前記押圧部(２０)が前記シール蓋(３０)の一部を突き上げ、開口させるように形成したことを特徴とする、ポーション容器。
【請求項２】
前記空隙(Ｓ)は、前記押圧部(２０)を通る前方から見た断面上において略逆Ｖ字形に形成したことを特徴とする、請求項１に記載のポーション容器。
【請求項３】
前記隆起部(１２)は、前後方向の両側の低位隆起部(１２ａ)に比べて同中間に位置する高位隆起部(１２ｂ)をさらに高く隆起させ、この高位隆起部(１２ｂ)に前記押圧部(２０)を形成したことを特徴とする、請求項１又は請求項２に記載のポーション容器。
【請求項４】
前記高位隆起部(１２ｂ)の上壁(１６ｂ)の前後両側から前後一対の押圧部(２０)を上方へ突設したことを特徴とする、請求項３に記載のポーション容器。
【請求項５】
前記シール蓋(３０)の中央部(３２)に破断用弱化部(３４)を形成するとともに、前記押圧部(２０)によりシール蓋(３０)を突き上げたときに、前記外向きフランジ(２２)の上面へのシール蓋(３０)の周辺部(３１)の接着を保持したままで前記破断用弱化部(３４)が破断するように前記外向きフランジ(２２)と前記周辺部(３１)との接着強度を設定したことを特徴とする、請求項１から請求項４のいずれかに記載のポーション容器。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ポーション容器に関する。
【背景技術】
【０００２】
この種のポーション容器として、次のものが知られている。
（１）有底の筒壁上端に付設した外向きフランジの一部を角部として側外方へ突出した容器本体と、前記外向きフランジに剥離可能に貼設したシール蓋とからなり、前記角部に重ねたシール蓋部分を摘まんでシール蓋を除去するように構成したもの（特許文献１）。
（２）弾性変形可能な胴部から起立させた大径の口筒部の上端に外向きフランジを付設した容器本体と、
前記外向きフランジの上面に貼設させたシール蓋と、
前記口筒部内に嵌合筒部を嵌合させるとともに、この嵌合筒部の左右両部からヒンジを介して一対の帯板部を垂下し、これら帯板部の下端部を、前記胴部の左右両部内面に当接又は近接させるとともに、前記一対の帯板部の上部から前記シール蓋の裏側付近にそれぞれカッター刃を突設させたシール蓋破断部材とを具備し、
前記胴部を左右方向から押し込むと、前記ヒンジを中心として帯板部が回転することで、

前記２本のカッター刃が前記シール蓋を突き破るように構成したもの（特許文献２）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０１４－１９６１１７
【特許文献２】特開２００９－２０２９４２
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
特許文献１の容器では、そのシール蓋の一端を摘まんで引きはがす際に、内容液が飛散して使用者の手が汚れることがあった。
その理由は、容器を開封するために、容器本体を２本の指で挟むとともに、シール蓋の一端を引っ張るので、引張り操作の際に、容器本体を保持する指に力が入るために、容器本体に内圧がかかり、開封した瞬間の圧力解放により、内容液が飛び出すと考えられる。
特許文献２の容器は、シール蓋の中央部を破断することで不意の内容液の飛散を回避することを意図して設計されているが、適切に操作するためには、前記一対の帯板部の下端部が当接している胴部の左右両部を押し込む必要があった。
ところが、これら一対の帯板部は容器本体に内蔵させた構造であるから、利用者が外部から目視することができないために、利用者が誤った操作（例えば胴部の前後両部を押し込むなど）をしてしまう可能性があり、操作方法が簡単ではない。
【０００５】
本発明の第１の目的は、開封操作が容易なポーション容器を提供することである。
本発明の第２の目的は、簡易な構成で開封時の内容物の飛散を効果的に規制できるポーション容器を提供することである。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
第１の手段は、内容物収納用の有底筒状の筒体４の上端に外向きフランジ２２を付設した容器本体２と、
前記外向きフランジ２２の上面に貼設したシール蓋３０と、
からなり、
前記筒体４の底部６側から、当該筒体４の少なくとも下半部を左右に区分する隆起部１２を突設させ、この隆起部１２の両側の筒体部分を、押込み操作部を兼ねる左右一対の脚部１０に形成するとともに、前記隆起部１２の内部を押込み代である空隙Ｓとしており、
前記隆起部１２の少なくとも前後方向の一部に形成する押圧部２０を前記シール蓋３０に近接させ、
前記一対の脚部１０を左右方向内側へ押し込むことで前記押圧部２０が前記シール蓋３０の一部を突き上げ、開口させるように形成した。
【０００７】
本手段は、内容物収納用の有底筒状の筒体４の底部６側から、図２に示すように、隆起部１２を突設させることを提案する。
この隆起部１２は、図４に示すように、筒体４の少なくとも下半部を左右に区分している。そして、この隆起部１２の両側の筒体部分を、押込み操作部を兼ねる左右一対の脚部１０に形成するとともに、前記隆起部１２の内部を押込み代である空隙Ｓとしている。また前記隆起部１２の少なくとも前後方向の一部に形成する押圧部２０を前記シール蓋３０に近接させている。
そして、前記一対の脚部１０を左右方向内側へ押し込むことで前記押圧部２０が前記シール蓋３０の一部を突き上げ、開口させるように形成している。
容器本体の一部（押圧部）でシール蓋３０を突き上げて開口するから、簡易な構成により、外向きフランジとシール蓋との間から内容液が飛散して容器本体２２を把持する利用者の手に付着することを防止することができる。

また、前記押圧部２０を押し上げるための押圧操作部として左右一対の脚部１０を採用したから、どこを押圧すればよいかが一見して理解され、開封操作が容易である。

【０００８】

第２の手段は、第１の手段を有し、かつ前記空隙Ｓは、前記押圧部２０を通る前方から見た断面上において略逆Ｖ字形に形成した。

【０００９】

本手段では、図２に示すように、前記空隙Ｓは、前記押圧部２０を通る前方から見た断面上において、略逆Ｖ字形に形成している。

この構成によれば、左右一対の脚部１０を左右方向内側へ押し込むことにより、脚部同士の間の押込み用距離ｄを十分に確保することができ、前記シール蓋３０への前記押圧部２０の突き上げをより確実にすることができる。

【００１０】

第３の手段は、第１の手段又は第２の手段を有し、かつ前記隆起部１２は、前後方向の両側の低位隆起部１２ａに比べて同中間に位置する高位隆起部１２ｂをさらに高く隆起させ、この高位隆起部１２ｂに前記押圧部２０を形成している。

【００１１】

本手段では、前記隆起部１２は、図１に点線で示すように、前後方向の両側の低位隆起部１２ａに比べて同中間に位置する高位隆起部１２ｂをさらに高く隆起させている。

そして、この高位隆起部１２ｂに前記押圧部２０が形成されている。

この構成によれば、容器本体２の内容積を過度に小さくせずにシール蓋３０の裏面近くまで隆起部１２を到達させることができる。

【００１２】

第４の手段は、第３の手段を有し、かつ前記高位隆起部１２ｂの上壁１６ｂの前後両側から前後一対の押圧部２０を上方へ突設している。

【００１３】

本手段では、図１に点線で示すように、高位隆起部１２ｂの上壁１６ｂの前後両側から前後一対の押圧部２０を上方へ突設している。

この構成によれば、シール蓋３０を突き上げた時に、それら一対の押圧部同士の間隙Ｇから破断用弱化部３４に生じた開口Ａへ液体の通路ができるので、液体の吐出方向を規制することができ、筒体４を摘持する利用者に指に飛び散りにくい。

【００１４】

第５の手段は、第１の手段から第４の手段のいずれかを有し、かつ前記シール蓋３０の中央部３２に破断用弱化部３４を形成するとともに、前記押圧部２０によりシール蓋３０を突き上げたときに、前記外向きフランジ２２の上面へのシール蓋３０の周辺部３１の接着を保持したままで前記破断用弱化部３４が破断するように前記外向きフランジ２２と前記周辺部３１との接着強度を設定した。

【００１５】

本手段では、図３に示すように、前記シール蓋３０の中央部３２に破断用弱化部３４を形成している。

また前記押圧部２０によりシール蓋３０を突き上げたときに、前記外向きフランジ２２の上面へのシール蓋３０の周辺部３１の接着を保持したままで前記破断用弱化部３４が破断するように前記外向きフランジ２２と前記周辺部３１との接着強度を設定している。

この構成によれば、シール蓋の開封時に前記外向きフランジ２２と前記周辺部３１との間から内容液が飛散して、前記筒体４を摘持する利用者の指に付着することを防止できる。

【発明の効果】

【００１６】

第１の手段に係る発明によれば、内容物収納用の筒体４の底部６側から隆起部１２を突設させ、この隆起部１２の両側の筒体部分を、押込み操作部を兼ねる左右一対の脚部１０に形成し、これら脚部の内方押込みにより、前記隆起部１２の押圧部２０が前記シール蓋

３０の一部を突き上げ、開口させるように構成したから、簡易な構成により、内容液が不意な方向へ飛散することを防止でき、また容易に開封することができる。

第２の手段に係る発明によれば、前記隆起部１２の内部の空隙Ｓを、前記押圧部２０を通る前方から見た断面上において略逆Ｖ字形に形成したから、左右一対の脚部１０を左右方向内側へ押し込むことにより、脚部同士の間の押込み用距離ｄを十分に確保することができ、前記シール蓋３０への前記押圧部２０の突き上げをより確実にすることができる。

第３の手段に係る発明によれば、前記隆起部１２は、前後方向の両側の低位隆起部１２ａに比べて同中間に位置する高位隆起部１２ｂをさらに高く隆起させ、この高位隆起部１２ｂに前記押圧部２０を形成したから、容器本体２の内容積を過度に小さくせずにシール蓋３０の裏面近くまで隆起部１２を到達させることができる。

第４の手段に係る発明によれば、高位隆起部１２ｂの上壁１６ｂの前後両側から前後一対の押圧部２０を上方へ突設したから、シール蓋３０を突き上げたときに、それら一対の押圧部２０同士の間隙Ｇから破断用弱化部３４に生じた開口Ａへ液体の通路ができるので、液体の吐出方向を規制することができ、筒体４を摘持する利用者に指に飛び散りにくい。

第５の手段に係る発明によれば、前記シール蓋３０の中央部３２に破断用弱化部３４を形成するとともに、前記押圧部２０によりシール蓋３０を突き上げたときに、前記外向きフランジ２２の上面へのシール蓋３０の周辺部３１の接着を保持したままで前記破断用弱化部３４が破断するように前記接着の強度を設定したから、シール蓋の開封時に前記外向きフランジ２２と前記周辺部３１との間から内容液が飛散することを効果的に防止できる。

【図面の簡単な説明】

【００１７】

【図１】本発明の実施形態に係るポーション容器の側面図である。

【図２】図１のポーション容器を正面方向から見た断面図である。

【図３】図１のポーション容器の平面図である。

【図４】図１のポーション容器の底面図である。

【図５】図１のポーション容器の開封操作を示す図面で、同図（Ａ）は開封操作の第１段階を、同図（Ｂ）は開封操作の第２段階をそれぞれ示している。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１８】

図１から図５は、本発明の実施形態に係るポーション容器を示している。このポーション容器は、容器本体２と、シール蓋３０とで構成されている。これら各部材は、例えば合成樹脂で形成することができる。

このポーション容器は、例えば飲み物のカップや調理用の鍋などに入れる調味料を収容するために使用することができる。もちろん、これ以外の用途に使用することは言うまでもない。

【００１９】

前記容器本体２は、図１に示す如く、有底筒状の筒体４と、この筒体４の上端に付設した外向きフランジ２２とを有する。この容器本体２は、可撓性材料で形成すると良い。

【００２０】

前記筒体４は、底部６の外周から筒側壁８を起立するとともに、図２に示すように、前記底部６側から、当該筒体４の下半部を左右に区分する隆起部１２を上方へ突設させている。

この隆起部１２の両側の筒体部分は、押込み操作部を兼ねる左右一対の脚部１０に形成されており、また、前記隆起部１２内には、図４に示す如く、押込み代（脚部の内方押込みを可能とするスペースを言う）である空隙Ｓが形成されている。図示例の空隙Ｓは、前後方向から見て深溝状の凹溝として形成されている。この空隙Ｓは、隆起部１２の下端側から、後述の高位隆起部１２ｂの上壁１６ｂ裏面まで連続している。

なお、本明細書において、図４の右側及び左側を、それぞれ“右”、“左”といい、図

４の上側及び下側を、それぞれ、“前”及び“後”というものとする。

【００２１】

前記筒側壁８は、屈曲変形可能な厚みに形成されている。また筒側壁８の左右方向の各壁部は平坦部８ａに形成されている。

【００２２】

前記脚部１０は、前記底部６の一部である脚底１０ａと、この脚底１０ａの前側と後側と左右方向の外側とに連続する脚壁１０ｂとで構成されている。

前記脚底１０ａは、図４に示す如く、前後方向に長い帯状に形成されている。

前記脚壁１０ｂは、前記筒側壁８の下半部のうちで前記隆起部１２により分離された左右の半身で形成されている。前記脚壁１０ｂと前記筒側壁８の上半部とは境目無く連続している。

ここで、前記一対の脚部１０の機能を説明する。これら脚部１０は、後述の押圧部でシール蓋を突き上げるための押込み操作部であるが、大切なことは、容器本体の一部として形成されているということである。

この構成の第１の利点は、既述従来技術の帯板部と異なり、利用者がその形態を外部から視認できるため、どこを押せばよいかが一見して判り、使い方で戸惑うことがないことである。従って、開封操作が簡単となる。

この構成の第２の利点は、全体としてパーツ数が増えることがなく、相対的に廉価で製造できることである。

【００２３】

前記隆起部１２は、前記筒体４の底部６の左右方向の中間部を、後述のシール蓋３０近くまで隆起させた構造である。前記隆起部１２は、図４に示す如く、前記筒体４の左右方向の中間部を前後方向に横断しており、前記隆起部１２内の空隙Ｓを押込み代として、前記左右一対の脚部１０を左右方向内方へ押し込むことが可能に形成している。

前記隆起部１２は、図示例において、図２に示す如く、前記脚底１０ａから上内方へ傾斜する左右一対の対向壁部１４と、これら対向壁部の上端を連結する上底壁１５とを含む。この構成では、前記対向壁部１４同士の間の空隙Ｓが略逆Ｖ字形（上端側に比べて下端側が左右方向へ拡張する形状）となる。こうすることにより、前記一対の脚部１０を左右方向内側へ押し込んだときに、隆起部１２全体をせり上げることが可能に形成している。

なお、図示例では、前記対向壁部１４の上部を急傾斜壁部１４ｂとするとともに、対向壁部１４の下部を、急傾斜壁部１４ｂよりも傾斜の緩い緩傾斜壁部１４ａにそれぞれ形成している。これにより、前記一対の対向壁部１４の下端同士の間の押込み用距離ｄを大きく取ることができる。もっともこれらの構造は適宜変更することができる。

前記上底壁１５の適所（図示例では前後方向の中間部）に、前記シール蓋３０を突き上げるための押圧部２０を形成している。押圧部の構造に関しては後述する。

さらに図示例では、前記上底壁１５の前後方向の両側部を容器本体２の高さの半分程度の位置に配置するとともに、この上底壁１５の前後方向の中間部を前記シール蓋３０付近へさらに隆起させている。こうすることで、隆起部１２の前後方向の両側部を低位隆起部１２ａに、また前後方向の中間部を高位隆起部１２ｂにそれぞれ形成している。

このようにすることで、容器本体内の内容積が過度に狭くなることを防止している。

そして、この高位隆起部１２ｂは、図示例では、図４に示すように、上方から見て略矩形の筒壁１６ａの上端を上壁１６ｂで閉塞させた有頂筒状に形成されている。また図２に示すように、前記筒壁１６ａの左右の側壁部１８は、前記対向壁部１４の急傾斜壁部１４ｂと境目無く連続している。もっともこの構成は適宜変更することができる。

【００２４】

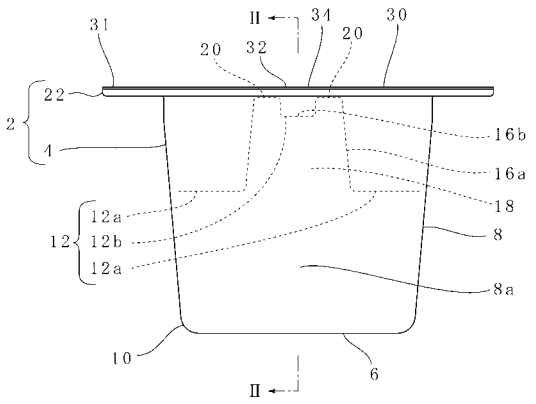
前記押圧部２０は、上方への凸形の軸部として形成するとよい。この軸部でシート蓋３０の一部（図示例では中央部）を局部的に突き上げることにより、シール蓋を突き破って効率的に開口させることができる。これにより、シール蓋の一部を摘まんで剥がす従来容器のようにシール蓋と外向きフランジとの間から内容液が飛散することを防止できる。

図示例の押圧部２０は、前記上底壁１５の一部を上方へ膨出させて有頂筒状の軸筒とし

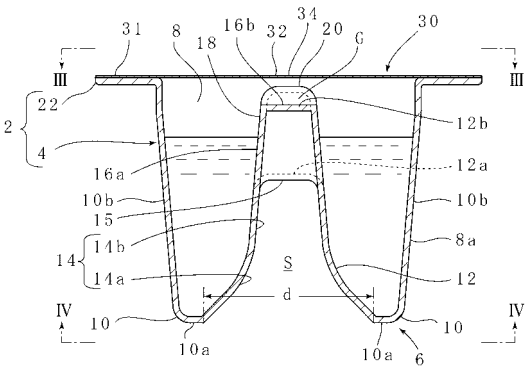
て形成している。もっとも、その構造は適宜変更することができる。
さらに本実施形態では、図１に点線で示すように、前記高位隆起壁１２ｂの上壁１６ｂの前後両部から、前後一対の押圧部２０を隆起させている。
この構成によれば、これら一対の押圧部２０で前記シール蓋３０を突き上げ、開口させたときに、前記一対の押圧部２０同士の間隙Ｇから前記シール蓋３０の開口Ａを通る内容液の通路が形成される（図５（Ｂ）参照）。
従って、単一の押圧部２０でシール蓋３０を突き破る場合に比べて、液体の吐出方向を規制できるので、不意に内容液が飛び散る危険性がさらに低減する。
【００２５】
前記外向きフランジ２２は、前記筒側壁８の上端から外方へ水平に突出している。図示例では、外向きフランジ２２の輪郭は、円形である。
なお、本発明では、外向きフランジ及びシール蓋の外周の一部に開封用の摘み部を設ける必要がない。摘み部の代わりに、前記シール蓋を突き破るための構造（隆起部）を採用しているからである。
【００２６】
シール蓋３０は、前記外向きフランジ２２の上面に貼設され、前記容器本体２の上面全体を覆っている。
図示例のシール蓋３０は、図３に示すように、前記シール蓋３０の中央部３２に破断用弱化部３４を形成するとともに、前記シール蓋３０の周辺部３１を前記外向きフランジ２２の上面に接着させている。もっともこれらの構造は適宜変更することができ、破断用弱化部３４の位置は中央部でなくても構わない。
前記周辺部３１と前記外向きフランジ２２との接着強度は、前記押圧部２０によりシール蓋３０を突き上げたときに、前記外向きフランジ２２の上面へのシール蓋３０の周辺部３１の接着を保持したままで前記破断用弱化部３４が破断するように設計する。
図示例において、前記破断用弱化部３４は、十字状に交差する一対の破断用弱化線として形成している。もっともこの構成は適宜変更することができる。
また前記破断用弱化部３４を設ける代わりに、前記押圧部２０としてカッター刃を採用し、このカッターで前記シール蓋３０の中央部３２を破断させても構わない。
【００２７】
前記構成において、このポーション容器を使用するときには、図５（Ａ）に示す如く、内容物を吐出させるためのターゲット（例えばカップ・鍋などの容器）に向けて、ポーション容器を逆さまにして持ち、そして前記筒側壁８の平坦部８ａに指を当てて、左右一対の脚部１０を左右方向内側へ押し込むと良い。
これにより、前記空隙Ｓの幅の分だけ前記筒体４が変形し、その結果として、前記隆起部１２が前記シール蓋３０の側へせり出し、前記押圧部２０が前記シール蓋３０の裏面を押圧する。
前記左右一対の脚部１０を左右方向内側へさらに押し込むと、前記隆起部１２の対向壁１４同士が接触し、前記押圧部２０ごと隆起部１２が変形する。これにより、図５（Ｂ）に示すように、押圧部２０が前記破断用弱化部３４を押し破り、開口Ａが形成される。
そして一対の押圧部２０同士の間隙Ｇを経て前記開口Ａから内容液が前記ターゲットへ吐出される。
この状態で、前記開口Ａは、カップや鍋などの吐出対象の方に向けられているため、開封操作により、使用者の方へ（例えば容器本体の外面を支える利用者の手の方へ）液体が飛散することを防止できる。
【符号の説明】
【００２８】
２…容器本体　４…筒体　６…底部　８…筒側壁　８ａ…平坦部
１０…脚部　１０ａ…脚底　１０ｂ…脚壁
１２…隆起部　１２ａ…低位隆起部　１２ｂ…高位隆起部
１４…対向壁部　１４ａ…緩傾斜壁部　１４ｂ…急傾斜壁部

１５…上底壁
１６ａ…筒壁　１６ｂ…上壁　１８…側壁部　２０…押圧部
２２…外向きフランジ
３０…シール蓋　３１…周辺部　３２…中央部　３４…破断用弱化部
Ａ…開口　ｄ…押込み用距離　Ｇ…間隙　Ｓ…空隙

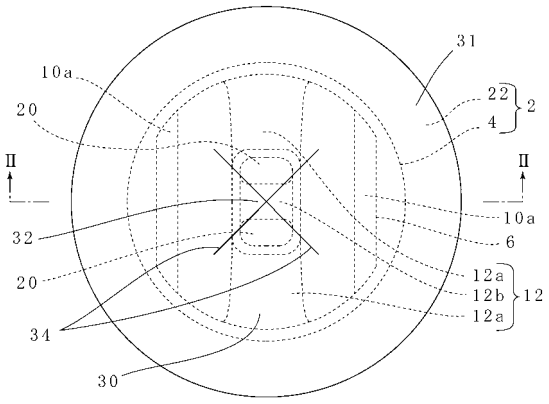
【図１】



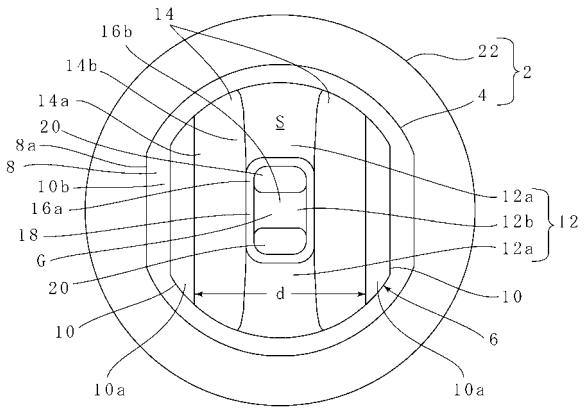
【図２】



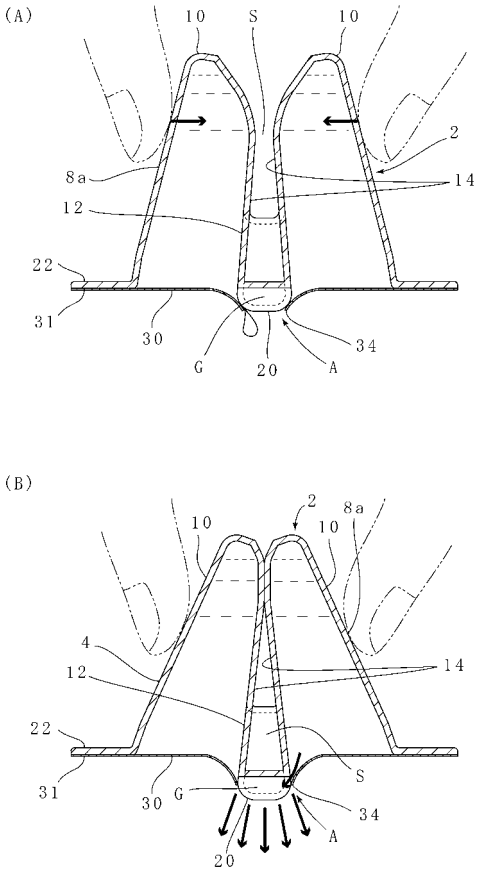
【図３】



【図４】


14
16b
14b
14a
20
8a
8
10b
16a
18
G
20
10
10a
22
2
4
S
12a
12b
12a
12
10
6
10a
d

【図５】


(A)
10
S
10
2
8a
14
12
22
31
30
G
20
34
A
(B)
2
8a
10
10
4
14
12
22
S
31
30
G
34
A
20